

えがお大東っ子

第57号

大東市のホームページでも「えがお大東っ子」をご覧ください。

<http://www.city.daito.lg.jp/kakukakaranooosirase/gakoukyoiku/kyouikukenkyu/egaodaitoukko/>

小学校の外国語活動、外国語科について

小学校3・4年生では外国語に慣れ親しむことを目的として、音声を中心とした外国語活動を行っています。また、5・6年生では、中学校との円滑な接続をめざし、「読み書き」を含めた外国語科を学んでいます。

5・6年生は教科として外国語科となったので、評価もします。【聞くこと】、【読むこと】、【話すこと（やり取り）】、【話すこと（発表）】、【書くこと】の5つの領域があり、3観点【知識・理解】、【思考・判断・表現】、【主体的に学習に取り組む態度】の組み合わせで評価を行います。

大東市内の小学校の授業の様子です。体全体を使って英語の表現を覚えます。子どもたち自身で考えた体の表現を、繰り返し行うことで覚えていきます。また、Small Teacherとして、子どもたちがミニ先生役になって、ペアであいさつをしたり質問したりする時間もあります。

TVを使って動画を見ながらであればイメージも湧きやすく、どの子も取り組みやすいように工夫がされています。アルファベットの読み書きから、単語へつなげていくことも継続して行われています。少しでも、中学校での英語にスムーズに接続できるように、このような授業が大東市内の小学校で展開されています。



情報モラル教育について

子どもの頃からスマホ、タブレット型パソコン等を活用する情報化時代になってきていますが、便利な反面、使い方を間違えると重大なトラブルにもつながります。

大東市の小・中学校では、子どもたちと比較的年齢に近い大学生を講師として迎え、スマホ、タブレット型パソコン等の安全な使い方を考える「情報モラル学習教室」の実施や、学校独自の取組みを通じて、その危険性について学んでいます。

子どもたちがトラブルの被害者にも加害者にもならないようにするために、例えば、次のようなことが大切です。

- ・家族でルールを決めてから子どもに持たせる。（例）時間、課金、持ち出し等
- ・メッセージを送るときやSNSに文章を投稿するときには、送られた相手はどう感じるか想像する。
- ・写真や動画を投稿する前に、本当に投稿して問題がない内容かどうかを考える。
- ・インターネット上で仲良くなった人とは、絶対に会わない。
- ・本当に必要なアプリかどうか、安全なアプリかどうかを確認してダウンロードする。

また、ゲーム機器においても、同様の通信機能やメッセージ機能がついていることがあります。

この機会に、お子様とスマホ、タブレット型パソコン等の扱い方について、一度話し合ってみてはいかがでしょうか。



大東市内の各学校園の取組み紹介のコーナー



住道中学校

SDGs ～未来を変えるのは私たち～

本校は「落ち着いた環境のもと、子どもたちが自分の良さを存分に発揮できる学校」をめざしています。昨年度の経験や実践を生かして、やるべきこと、できることを徹底しておこない、「学びを止めない」ことを念頭に、前向きに工夫しながら教育活動を続けてきました。

2年生では、1学期に「未来を変えるのは私たち」というテーマでSDGsの学習を行いました。持続可能な社会にするためには、国や地域だけでなく、一人ひとりの行動(アクション)が大切です。

「誰ひとり取り残さない」というSDGsを貫く理念を頭に入れて、自分の興味があることを切り口に「SDGs私のアクションプラン」を全員が考えたあと、班で1つのテーマを選びました。SDGsを知り、自分にも関わりがあることに気づくとともに、教科横断的(国語・技術)な授業も入れてプレゼンテーションを行い、自分の将来とより良い未来を創るために「行動する」力をつけることができました。

班のプレゼンテーション



泉小学校

「笑顔のわき出る学校」をめざして



明年、創立50周年を迎える泉小学校は、学校目標「笑顔のわき出る学校」をめざして、子どもと子どもをつなぐ縦割り班活動の『にこにこ泉』に取り組んでいます。全児童が1年生から6年生まで全学年を含む56チームの縦割り班をつくり、高学年がリーダーシップを発揮して、児童が主体的に活動します。

1学期には、リーダー会、顔合わせ会(自己紹介やゲーム)を行い、6月には、4チーム1班で子どもたちが楽しめるお店を作って、みんなでふれあう『泉まつり』を行いました。チームのめあてやそれぞれの役割を決めて、全員で協力して準備し、お店を作りました。6年生のリーダーを中心にどの学年の児童も生き生きと活動していました。



『泉まつり』の様子

2学期には、感染症対策を十分に行った上で、『にこにこ泉遊び』や『にこにこスタディ』(チームで自学ノートの学習)を行う予定です。泉小学校は、子どもたち誰もが主役となって活躍し、学び合い、助け合う「笑顔のわき出る学校」をめざします。



住道南小学校

「豊かな子」「考える子」「強い子」の育成」

～住道南小学校であることに誇りを持って～

本校は、本市中心部、住道駅にほど近い交通至便の立地に位置し、創立71年を誇る堂々たる伝統校です。教育目標に「豊かな子」「考える子」「強い子」の育成を掲げ、安心安全な学級づくりと充実した教科指導を両輪に、日々の教育活動を展開しています。

本校では、高いレベルでの学力・体力の定着を図るとともに、豊かな人間性を育む「縦割り活動」等の取組みを通して、「自分は仲間と共に、一生懸命がんばっている」と実感できる機会を多く持てるよう努めています。そして、そのことが結果として、住道南小学校であることに誇りを持つ児童の育成につながると考えています。隣接する住道中学校とも小中一貫の取組みを強めつつ、校名に「住道」の冠をいただく榮譽を感じながら、「流石は住南小の子どもたち」と言われるようがんばっています。



(1～6年の縦割り活動)

住道北小学校

創立132年を迎えました



令和3年7月15日、本校は創立132年を迎えました。本校の「沿革史」には、創立当初の記録がこのように残されています。

『明治22年7月15日 元茨田郡諸福小学校区域内灰塚および元讃良郡上、下三箇の両校を合併して一校を住道村字三箇堤町に設置。三箇小学校と称す。』

明治22年(1889年)に「下三箇小学校」と「上三箇小学校」の二つの小学校が合併し、「三箇小学校」ができました。

この「三箇小学校」が、今の住道北小学校になるのです。(※現在の三箇小学校は、昭和56年4月に氷野小学校から分かれて開校した学校なので、当時の三箇小学校とは別です。)

そして、明治24年(1891年)に、校名が「住道尋常小学校」と変わり、明治37年(1904年)4月1日に、現在の場所に引っ越し、大正2年(1913年)には校名が「住道尋常高等小学校」、昭和16年(1941年)には「住道国民学校」、昭和22年(1947年)には「住道町立小学校」、昭和26年(1951年)には「住道町立北小学校」、昭和31年(1956年)に今の校名である「大東市立住道北小学校」となりました。

本校の校長室には、この2枚の航空写真をはじめ初代校長先生(明治時代)からの肖像写真等、貴重な写真が残されています。校長室に来られた多くの方が、飾られている写真に驚かれます。

今後もこの素晴らしい伝統を大切に、「夢をもつ住北っ子」の育成をめざすとともに、100年後も子どもたちが生き生きと輝く住道北小学校であり続けたいと思っています。



(昭和38年ごろの学校)



(昭和22年頃の校区の様子)



谷川中学校

「地域の皆さまに支えられて」



今年度、「落ち着いた環境の中で、生徒たちが学習や活動に存分に力を注ぐことができる学校」をめざしてスタートしましたが、コロナ禍の影響を受け、行事や教育活動を思うように進めることができていません。そのような中、学校は、地域の皆さまからの支えや励ましに大きな力をいただいています。毎朝、校門に地域の方々を立て、生徒たちに「おはよう」と声をかけてくださっています。

除草作業など地域の方からの提案で校内の美化活動を行ってくださることも度々あります。生徒たちには、そのような地域の大人が活動される姿を見て学び、やがては地域社会の担い手に育ってくれたらと思います。

本中学校区は、各小学校が分散進学する複雑な校区ですが「広域小中一貫」の視点で小中一貫教育を推進していきたいと考えています。そのためには、地域の皆さまの力をお借りすることも欠かせません。今後も地域とともに、よりよい学校、よりよい校区づくりをめざしていきたいと思っています。



三箇小学校

「正しく考え高め合う子」「豊かな心をもった子」「体を大切にする子」の育成をめざして

本校では、昨年度に引き続き大阪府の『確かな学びを育む学校づくり(TM)推進事業』の指定を受け、大東市GIGAスクール推進事業により1人1台貸与されたタブレット端末を様々な教科等で学習ツールとして使いながら、学力向上に取り組んでいます。教員は、授業改善のための研究授業に積極的に取り組み、ICT機器を活用していく一方で子どもたちの丁寧な「ノートづくり」や「読書活動の充実」といったアナログの学習にも重点を置いています。



子どもたちが黒板を写すだけでなく、自分や友だちの考えをまとめながらノートを作っていく作業を大切に、学び合いながら高め合っている授業をめざしています。また“子どもたちが訪れたいくなるワクワクする学校図書館”をキーワードに月ごとにレイアウトを替え、チャレンジする取組を企画するなどして、たくさん本に触れることのできる環境づくりにも努めています。



さらに、子どもたちの主体性を高める取組みとして『三箇フェス』（児童会まつり）を行い、このイベントを高学年の児童会スタッフが責任をもって企画・運営することのできるよう教職員がサポートしています。1学期に実施した際には、子どもたちの笑顔が学校じゅうにあふれました。そしてまた、高学年の児童が下の学年の子どもたちに自分たちの学習したことや持っている技を伝えるという機会も大切にしています。1学期には6

年生が3年生にお箏の弾き方を教える体験をしました。

自分も友だちも大切に、豊かな心を育み、学び合い、高め合える子どもたちに育ってくれることを願っています。

